

# 「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー2023」審査委員 講評

坂本 雄三（ハウスオブザイヤー審査委員長、東京大学名誉教授）

繰り返しになりますが、本表彰の趣旨は、建物躯体と設備機器をセットとして捉え、トータルとしての省エネルギーや CO<sub>2</sub> 削減等へ貢献する優れた住宅を表彰し、そのような住宅を全国に普及させることにあります。本表彰のこれまでの応募状況や大賞受賞企業を表1に示します。また、2023年度表彰における評価順位と建物性能指標（U<sub>A</sub>とBEI）の分布を図1～3に示します。これらのデータから推測しますと、本表彰の趣旨は全国で受け入れられていると判断してよいものと思われまます。もちろん、その背景には補助金や規制強化などの政府等の政策によるプッシュがあります。最近も東京都によって「東京エコビルダーズアワード」なる表彰が行われましたが、その趣旨は本表彰のそれと同質ものと言えまします。

さて、2023年度の大賞受賞の住宅について、一言述べておきます。ヤマト住建は三回目の受賞で、断熱性能と設備性能が共に優れ、両者のバランスが良いことが特長と言えます。ホームズとユートピア建設は、ともに初の大賞受賞です。前者は断熱性に優れ、後者は設備性能に優れています。特に、後者のユートピア建設は、省エネやエコに関する対策ばかりでなく、制震ダンパーの採用など災害対策にも注力しており、文字通りのスマートハウスを志向しています。これは今後の優れた住宅の方向を暗示するものと言えます。

表1 最近までの応募・受賞シリーズ数および大賞シリーズと企業名

回数	年度	応募シリーズ数	優秀シリーズ数	特別優秀シリーズ数	House of the Year in energy 大賞					
					大賞受賞シリーズ数	大賞受賞企業名	U <sub>A</sub> [W/m <sup>2</sup> K]	BEI [-]	年間の販売シリーズ棟数	年間の企業の新築販売棟数
16	2023	180	90	83	3	ヤマト住建	0.26	0.32	36	1059
						ホームズ	0.25	0.35	9	10
						ユートピア建設	0.47	0.31	18	18
15	2022	194	99	86	3	興隆商事	0.31	0.28	3	51
						鈴木環境建設	0.21	0.24	5	5
						高砂建設	0.26	0.40	38	73
14	2021	212	103	96	3	泉北ホーム	0.36	0.38	55	429
						住まいのワチケ	0.15	0.29	16	36
						松下孝建設	0.29	0.28	30	30
13	2020	234	117	95	3	エルクホームズ	0.39	0.39	164	213
						健康住宅	0.24	0.33	40	90
						SANKO	0.30	0.31	9	9
12	2019	264	157	82	4	リベスト	0.25	0.43	69	121
						コージーホーム	0.24	0.35	24	24
						アイディール	0.25	0.29	5	7
						ISdesign建築設計	0.19	0.24	8	9
11	2018	227	144	68	3	泉北ホーム	0.38	0.42	86	315
						住まいのワチケ	0.23	0.50	30	32
						鈴木環境建設	0.23	0.40	8	8
10	2017	215	137	63	4	ヤマト住建	0.27	0.23	23	426
						セイダイ	0.28	0.40	56	58
						鳥野工務店	0.20	0.37	7	7
						ISdesign建築設計	0.23	0.26	7	7

回数	年度	応募シリーズ数	優秀シリーズ数	特別優秀シリーズ数	House of the Year in energy 大賞		
					大賞受賞シリーズ数	U <sub>A</sub> [W/m <sup>2</sup> K]	
9	2016	214	138	36	3	エルクホームズ	0.51
						健康住宅	0.28
						北信商建	0.27
8	2015	128	87	29	2	一乗工務店	0.30
						アイ・ホーム	0.24
7	2014	102	68	24	2	アエラホーム	0.38
						ヤマト住建	0.29
6	2013	57	30	18	1	松下孝建設	0.24
5	2012	54	28	11	1	一乗工務店	0.38
2011 東日本大震災のため中止							
4	2010	53	23	23	2	新昭和	0.48
						松美造園建設工業	0.35
3	2009	43	27	9	2	フィアスホーム	0.49
						日野建ホーム	0.46
2	2008	28	12	8	2	パナホーム	0.74
						サンワホーム	0.29
1	2007	19	8	4	2	一乗工務店	0.38
						スウェーデンハウス	0.46

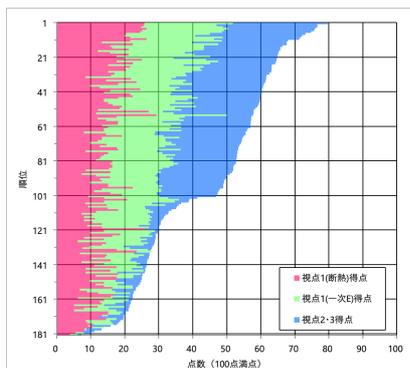


図1 順位と総合得点 (2023年度)

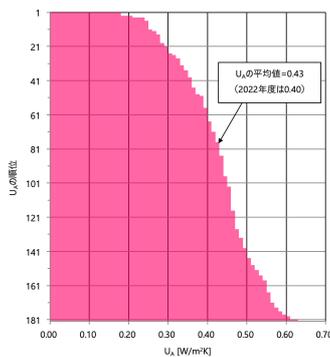


図2 UA の昇順分布 (2023年度)

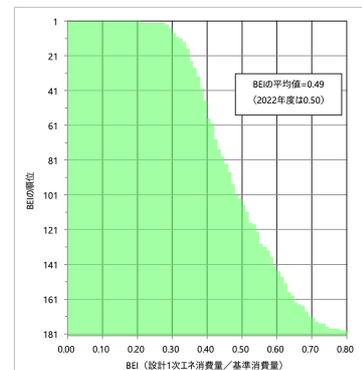


図3 BEI の昇順分布 (2023年度)

秋元 孝之（ハウスオブザイヤー審査委員、芝浦工業大学 教授）

受賞者の皆様、誠におめでとう御座います。

気候変動問題の解決に向けて「省エネ・低炭素」から「脱炭素」へと大きく舵が切られています。2023 年末にアラブ首長国連邦のドバイで開催された COP28 では、すべての国が「化石燃料からの脱却を進め、今後 10 年間で行動を加速させる」ことが合意され、また、2030 年までに再生可能エネルギー発電容量を世界全体で 3 倍、エネルギー効率の世界平均を 2 倍にする目標が掲げられました。エネルギー効率の高い住宅の設計や再生可能エネルギーの利用などの持続可能性を重視した地球環境への配慮が進むことが益々重要になっています。

今回のハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジーにも、大変多くのまたとても優れた「外皮と設備をセットで捉えた、トータルとして省エネルギーな住宅」の応募がありました。また、脱炭素社会実現のための取り組みもみられました。今回も皆様の取り組みと応募資料の充実度が増しており、優劣をつけることが大変難しかったです。

秋元賞は「サンヨーホームズ」としました。アップフロントカーボンにおける削減への取り組みに加えて、サーキュラーエコノミーに資する「スクラップ&ビルド」から「ストック活用型」の提案をしていることを高く評価しました。次回も皆様からの先進的な取組の応募を期待しています。

寺尾 信子（ハウスオブザイヤー審査委員、株式会社寺尾三上建築事務所 代表取締役）

受賞者の皆様、おめでとうございます。

桜の季節の表彰式が、本誌への記事掲載に変わり4年、建物性能指標の分布図などが誌上で見易く確認できるようになりました。UA 値の平均「2020 年度：0.42」→「2021：0.41」→「2022：0.40」→「2023：0.43」の横ばい傾向について、伸び止まりではなく、もっと多様な価値の創造に向けて各社が力を入れ始めたのでは、と嬉しく拝見しました。

2050 年脱炭素社会に向けて建物の全生涯の脱炭素化、WLC（ホールライフカーボン）削減が注目され、運用時の省エネ以外に多様な評価が求められています。今年の寺尾賞は「(株) 住まいのウチイケ」、「松尾建設 (株)」とさせて頂きました。具体的な応募住宅というより、両社の取組み姿勢を評価させて頂きました。

住まいのウチイケさんは毎年、高い総合順位をキープされている中、新分野 WLC 削減に向けての学びを社員一丸となって開始された会社全体の向上心を高く評価しました。また松尾建設さんは断熱性能第 2 位の高度な建物性能と、質の高い建築設計を車の両輪として位置付けておられる点を高く評価しました。本賞応募の全社が高度な建物性能を実現する技術を磨かれたと思います。

今後は各社ごとに新たなコンセプトの未来基準を追加しながら、地域に根付き愛される住宅づくりに意欲を燃やして頂くことを心から期待します。